

■日南海岸サイクルライン

一地域からはじまるサイクルツーリズムー

日南海岸きらめきライン 工藤登紀子

1. はじめに

「日南海岸きらめきライン」は国道220号・国道222号・国道448号・主要地方道28号を幹線道路として結ばれおり、宮崎市・日南市・串間市の3市を活動エリアとしています。

亜熱帯性気候が育む風光明媚な日南海岸国定公園を核にした海岸沿線地域と、林業が育む風土豊かな内陸部地域の二つの地域特性を持ち合わせており、「花の街きらめきエリア」、「神話きらめきエリア」、「郷山(さとやま)きらめきエリア」、「歴史・文化きらめきエリア」、「岬めぐりきらめきエリア」の5つのエリアでの、それぞれの特徴を活かした地域活動を展開しています。

道路そのものを観光資源として活用するという視点で、行政、住民、利用者、NPOなどが一体となり、美しい景観づくり・魅力ある地域づくりに取り組んでいます。



写真1 日南海岸独特の波状岩

近年、全国的にサイクルツーリズムがブームとなり、様々な取り組みがなされています。このような中、日南海岸地域においても、長距離を走るサイクリストの姿をよく見るようになってきました。



写真2 日南海岸を楽しむサイクリスト

2. サイクルツーリズムへの想い

(1) はじまりは地域の熱い想い込み

平成27年の夏頃、日南市南郷町の異業種協議会において、地域の活性化について話し合いが行われました。そこで、今、自転車がブームらしい！長距離を走る自転車にはスタンドがついていないらしく、自転車をはかけるスタンドがあると自転車に乗ったお客さんがたくさん来てくれるんじゃないか？それなら、ちょっとやってみよう！

サイクリストがいない協議会において、こんな話し合いが行われたようです。そして自らサイクルスタンドを制作し、南郷町に5店舗、サイクリストの休憩所が生まれました。

時を同じくして、日南海岸きらめきラインでも、沿線にサイクリング用のスタンドやベンチなどを備えた休憩所を整備し案内しようという動きが始まりました。

それぞれの活動を知る日南市が、自転車に関する意

見交換をしようということで、行政区を越えて呼びかけを行い、日南、串間のサイクリング協会や、まちづくり団体など、熱い雄志が集まり『自転車ライフ談義所』がスタートしました。こうして、地域の強い思い込みがつながり始めたのです。

会を重ねるごとに、皆でサイクルツーリズムへの知識や想いを深めて行きます。そこでいくつかの課題も整理されてきました。

今後の取り組み課題として以下を共有しました。

<今後の取り組み課題>

- ・サイクリストを受け入れる施設充実
- ・地域のおもてなしメニューづくり
- ・案内、広報

②サイクリング休憩所『サイクルレスト よってね!』

やると決まったら、まずはサイクリストを受け入れ休憩所をつくることになりました。既往の店舗や施設にサイクルスタンドの設置をしてもらい、既往のサービスに加え、ベンチや飲料水、トイレの提供などしてもらいます。協力いただける店舗や施設には共通のロゴマークを掲示してご案内することになりました。

休憩所の名称やロゴマークも皆で一緒に考え決めました。日南海岸らしさや気軽によってほしいという気持ちを込めて『サイクルレスト よってね!』という名称とロゴマークが決定しました。



写真3 自転車談義所



図1 自転車休憩所のロゴマーク

③日南海岸恋人ロードの発足

自転車観光を推進する上で、どういふサイクリストを対象にするのかという議論ができました。はじめての方から、ロングライドを楽しむ方、激坂が好きな方、求められるものも多様です。受け入れ側としては、はじめての方が楽しんでもらえるように整備を進めていくことにしました。そうすれば、多くの方に楽しんでもらえるはずでした。

そんな中、南郷町の異業種協議会（現在は、南郷町づくりGOGO会）が発起人となり、くしままちづくり協議会や宮崎県、日南市、串間市のサイクリング協会や関係者を巻き込みながら、日南海岸のお薦めサイクリングコース第1号が決まりました。その名も、『日南海岸恋人ロード』です。

日南市南郷町をスタートし、国道220号と県道488号を通りながら、串間市都井岬まで登り折り返すというものです。この沿線は、海岸線の絶景に加え、恋ヶ浦、夫婦浦などの恋や愛にまつわる地名が多く、縁結びの榎原神社や、都井岬では野生の岬馬の家族愛を間近にみることが出来るコースとなっています。



図2 日南海岸恋人ロードのマップ

さて、ルートも決まり、休憩所の名前もロゴ決まりました。次はいよいよ、サイクリストのおもてなしをどうするかです。そこから急遽、南郷地区の夏祭りと同日開催で恋人ロードのモニターツアーを開催する事になりました。

参加する方にどうしたら喜んでもらえるのか。その場でしか味わえない、ご当地グルメをたっぷり盛り込み、モニターツアー実施に向けて話し合いが進みました。約1ヶ月程度の募集期間でしたが、総勢60名の応募がありいよいよ本番！というところで、今季第1号の強烈な台風がやってきました。残念ながらモニターツアーは延期となり、さらに、国道448号線は路肩崩壊のため全面通行止めとなり、平成28年10月時点でも復旧の目処が立っていません。

未だ恋人ロードのツアーは実施されていませんが、ツアーの企画を進める過程で、地域の魅力を再度確認し、サイクリストへのおもてなしや受け入れメニューの検討など、自転車という道具をきっかけに、新しい観光のあり方への一歩を踏み出せたように感じました。

なによりも、その後も南郷地区では続々とサイクリストに向けたおみやげ品の開発が進められているのです。



写真4 恋人ロード限定の心のこもった商品

5. 官民学連携の動き

(1)日南海岸サイクルツーリズム協議会の発足

民間側の動きと同時平行で平成27年度から、国土交通省宮崎河川国道事務所、宮崎県、宮崎市、日南市、宮崎大学、民間団体等で構成されるサイクルツーリズム協議会が発足しました。

それぞれの立場でそれぞれが役割を担いながら、できることをどんどん進めていく体制が整いました。

(2)自転車に関する社会実験の実施

平成27年度、民間側での自転車休憩所の設置が進み日南海岸を疾走するサイクリストが増えていく中、公共空間においても自転車休憩所が必要ではないかという議論ができました。そこで、日南海岸きらめきラインが主体となって、公共空間において3日間限定のサイクルスタンドを設置しモニタリング調査を行いました。

その後、平成28年度は国が予算を確保し、秋から半年間の社会実験を実施することになりました。

日南海岸での自転車の基地づくりを行い、より多くの利用者に海岸線を走ってもらえるようにすること。その拠点で新しい制度をつかって収益事業をあげ、風景づくりに還元することを目的としています。



写真5 平成27年度の社会実験の様子



写真6 既存施設を活用したスタンドの提案

4. 今後の取り組み

(1)地域にお金が落ちるしかけづくり

サイクルツーリズムを進めながら、いかに地域にお金を落としてもらえかが今後の大きな課題です。定

期的なツアーの開催や、県外や海外からのお客様がより地域に深く入って楽しんでもらうためのツアーガイドの育成も必要です。



写真7 過去に実施したサイクリングツアー

(2)二次交通の確保に向けた連携

多様なサイクリストの利用を想定すると、自転車とあわせて自動車、電車、バス、タクシーなど二次交通との組み合わせも考えていかなければなりません。一般の利用者との共存、安全管理など、いくつかの課題があります。受け入れ地域も大きな意識改革が必要になります。交通管理者との密な連携をはかって行きたいとかがえています。

(3)新しい制度の活用

平成28年春、道路協力団体という新しい制度ができました。道路空間で公共性の高い活動をしてきた団体を指定し、道路空間で収益事業を行ってよいというものです。その代わりに、利益は道路の整備などに充当することになっています。日南海岸地域においても、この制度を活用しながら、道路空間に週末限定の地元の食材を売る市をたてたり、サイクリストのエイドステーションを設けたりできるのです。そこで得た収益を、周辺の植栽活動や周辺樹木の伐採など、景観を保全する活動に充当することができます。これまではなかなか見えにくかった、風景にお金を落としてもらえる仕組みだと期待しています。

5. おわりに

将来的に東九州自動車道の宮崎～日南～串間が開通

すると、日南海岸線の交通量は激減することが予測されます。近い将来こうした状況を迎える前に、日南海岸の新しい道路空間の使い方、観光のあり方を考えていく時期にきていると考えています。

このような状況の中、日南海岸地域にとってもサイクルツーリズムのブームは絶好の追い風だと考えています。地域の熱い思いを乗せて、日南海岸地域のサイクルツーリズムは走り続けます。



(2016年10月入稿)

第3回 日本都市計画学会九州支部幹事会議事録

日時：平成28年7月2日(土) 15:00～16:30

場所：九州大学箱崎キャンパス

工学部建築学科建築1番教室

出席者：坂井猛、橋本信幸、吉武哲信、三島伸雄、天本徳浩、有馬隆文、内田智昭、大井尚司、黒瀬武史、堤昌文、日暮光一郎、日高圭一郎、箕浦永子、山下三平、吉城秀治 以上15名

議事内容

1. 前回幹事会議事録の確認(三島)

- ・事前メール審議にもとづき、平成28年6月11日(土)開催分の平成28年度第2回幹事会の会議内容を確認した。

2. 熊本地震災害調査特別委員会について(三島)

- ・熊本地震に関する活動について、本部理事会に川上基金（40万円）を申請した。採択される見通しであるが、本部から「基金は報告書作成に使用し、活動には予算の追加配分（40万円程度）が可能である」とのご提案をいただいた。その他、社会連携活動予算（150万円）に申請することも可能であるが、今年度の申請は見送ることとなった。
 - ・他学会との連携について、土木学会との調整は進んでおり、各学会の本部同士の連携については本部に相談中である。なお、都市計画学会内の連携について、中四国支部・関西支部から支援のお申し出があり、支部の連携体制は整いつつある。
 - ・本委員会に、熊本側の先生方、造園の専門家に加わっていただくこととなった。
 - ・第2回災害調査特別委員会で行われた議論の結果について報告があり、活動内容および部会設立について承認された。今後は部会ごとに議論を深めるものとする。
 - ・2018年3月をめどに報告書をまとめる方向で進めていくこととする。
3. 平成29年度新規研究分科会の募集について（黒瀬）
 - ・平成29年度新規研究分科会の募集について、案1：熊本地震災害調査特別委員会の活動に予算を充てることとし今年度は募集しない、案2：募集のうち災害関連研究を重点的に募集する、という2案が提出された。
 - ・慎重に検討を進めた結果、今年度は新規研究分科会の募集をかけず、熊本地震災害調査特別委員会の活動の予算にあてること（案1）に決議された。
 4. 九州まちづくり賞の募集について（橋本）
 - ・2016年度「第3回九州まちづくり賞」の募集について報告があった。例年通り募集することが承認された。
 5. Who's Who の更新・新規追加について（加知（箕浦））
 - ・Who's Who の更新・新規追加について了承され、進めることとなった。
 - ・熊本地震に関する項目の追加については、災害調査特別委員会の活動については責任を持つが、個人活動については個人の責任のもとで記載いただくものとする。
 6. 支部トピックス（8月掲載分）（吉城）
 - ・資料にもとづき、支部トピックス8月掲載分について報告があった。
 7. 支部ニュース（No.79, 7月発行分）の確認（日高）
 - ・支部ニュース No.79 について報告があり、承認された。
 8. 名義後援（箕浦）
 - ・日本建築学会からシンポジウム「大学立地は都市を変えたか」の後援依頼について、内容の報告があり、承認された。
 9. 会計報告（内田）
 - ・資料にもとづき、6月末までの会計報告があった。
 10. 理事会報告（6月27日分）（坂井）
 - ・6月理事会について報告があった。
 - ・川上基金への応募については、本部理事会にて承認された。
 11. その他（平成29年度支部総会の日程）（箕浦）
 - ・平成29年度支部総会の日程は4月8日（土）に確定された。
 - ・次回第4回幹事会の日程と場所について確認した。

■支部ニュースに関する問合せ・連絡先

支部ニュースに関するお問い合わせやご意見等がございましたら下記までご連絡ください。各種イベント（シンポジウムや講演会等）のお知らせ等を掲載することも可能です。案内文を下記までお寄せください。

【公益社団法人日本都市計画学会九州支部事務局】

TEL : 092-642-3346 FAX : 092-642-3349

E-mail : cpj-q@arch.kyushu-u.ac.jp